

---

# 始まった恋～コナンside～

春崎やよい

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ  
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。  
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または  
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ  
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範  
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し  
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

始まつた恋／コナンside／

### 【Zコード】

Z3412E

### 【作者名】

春崎やよい

### 【あらすじ】

「哀で出来てこます。哀saidと対で作りました。お楽しみを  
!

ずっと俺は、灰原のことが好きになっていた。

いつからだらうか？出合ったときから？いや、違う・・・一緒にいるやつになつてからだ。

教室から飛び出した俺は、屋上に向かつた。

あいつのひとだから、屋上で空を見ていることだらうな

いつも言つていたからな

『鳥になつて空を飛んでみたい』

あの言葉を聴いたとき、灰原のことが気になりだしたのは・・・

今なら灰原に言える

屋上の扉を思いつきり、開けた

「灰原あー」

「灰原のことが好きだ！付き合つてくれー！」

灰原を抱きしめて言った。

お前は俺のこと好きだよな？

「私も・・・あなたのことが・・・その・・・」

灰原・・・

「私もあなたのことが好きです。」

今、はつきり聞くことが出来た

わつわよいつも強く抱きしめ、そして、キスを交わした。

あ、今始めて知ったけど・・・灰原の唇柔らかい

「はい、カット！」

これは、すべてお芝居だったんだ。

けれど、俺の灰原の思いは本物だ。放したくないぜ

「工藤君、いい加減はなしてくれない？」

「もう少しだけ、こうしていてもいいか？」

灰原に言った。

「いいわよ」

灰原は許してくれた。

暫く抱き合っていた俺は、灰原の耳元で囁いた。

「灰原さつき俺が言ったこと覚えてるか？」

「ええ、覚えてるけど・・・それが何？」

一呼吸置いてもう一度言った。そつじやないとちゅんと分かっても  
らいえないとthoughtたから

「俺は本当に灰原のことが好きだから」

「何よ、急に……」

びっくりするだろ？よ。#居と違つてこれは本当の俺の気持ちなん  
だぜ

マネージャーからキスシーンがあるって聞いたとき、嬉しかったん  
だぜ？だって、あの灰原とキスできるんだからな。

自分でも大喜びしたんだぜ？

灰原は俺に返事を聞かせくれるだろ？か？待つていると、灰原から  
信じられない言葉が出てきた

「私も・・好きよ・・コナン・・」

嬉しい気持ちでいっぱいになつたんだぜ。

「哀・・・」

「コナン・・・」

数分見つめあい、またキスをしたぜ。

まさか、これがきっかけで付き合つ「」ことが出来るなんて思わなかつ  
たぜ

## 余談

後日、灰原とデートに出かけた。

そのときの灰原の服装と言つたら。可愛らしかつた。緋色のワンピース。

灰原の可愛さを引き出していた。何を着ていも可愛いなと思つた。

「灰原似あつてゐるぜ」

まともに見れなくて、顔を逸らした。

灰原の手を取り、遊園地の中に入つて行つた。

おしまい

(後書き)

続編を読みたいと申しました方、要望ありがとうございます。今度は、「ナン said でお送りいたします。  
評価・感想・ダメだしお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3412e/>

---

始まった恋～コナンside～

2011年10月4日22時08分発行